

The 2 Chome Times 平成24年1月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO164.

2012. 1. 25.

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムズ1月号

★新年に想う 理事長久利計一

新しい年を迎えましたが浮き立つような気持ちを持って初春の賀詞を伝える事の出来ない心苦しさを感ずる新年です。東日本大震災で尊い命を奪われた方々にまずもって心からの御冥福をお祈りしたいと思います。あらゆる面で、意味で従来の延長線上の生活、思考が修正を迫られている中、私達神戸の街衆は従来にも増して社会との強い絆、御縁を大切に、儲けるより先に今、私達商人が果たさなければならない責任、使命を深く考え行動する年に致したいと強く思っています。従来にも増して街の皆様の御協力、御理解を切にお願い申し上げます。

★気の引きしめる新年会でした



新しい年を迎え、恒例の2丁目の新年会が1月10日午後6時より神仙閣で行われました。冒頭の理事長の挨拶の中で、今年**は厳しい年になるかもしれないが、決して愚痴、弱音は吐かない、これらの言葉は禁物であること、困難に挑戦し前向きな気持ちを絶えず持ち続ける等、勇気の出るお話を頂き、気の引き締まる思いがいたしました。**参加された組合員の方々はそれぞれリラックスして歓談され、神仙閣の中華料理に舌鼓を打たれていました。

それにしても神仙閣さん、料理の種類と量の多いこと.... (かなりサービスして頂いているみたい)。ありがとうございました。今年、来年と皆さんの笑顔で一年が始まる事を願っています。

★1・17阪神淡路震災追悼式



平成24年1月17日第17回阪神淡路大震災追悼式が三宮センター街のアートスクエアで行われました。ミサの厳かな曲の中で黙祷と献花を行いました。司会者の方の説明によると、神戸市の約4割の方が震災を体験していない世代になっているそうで、これからも震災を風化させず、語り続けていくためにも大切な行事だと思いました。幸いにも、街を訪れていた若い方々も献花してくださり、嬉しく思いました。あれから17年ですが、震災を忘れないためにも継続していかなければならないと決意を新たにしました。



★今年も献血をよろしくお願ひします

1月17日の火曜日、「街ぐるみ献血推進デー」が実施されました。例年、三宮センター街では、1月17日の「震災復興メモリアル追悼式」に合わせて、1・2・3丁目商店街振興組合とザ・ファーストの主催で「街ぐるみ献血推進デー」を実施しており、今回も「街衆」の力を挙げて献血推進活動に取り組みました。

受付者数	採血者数
356名	311名

当日は寒さの厳しい一日ではありましたが、ザ・ファーストのメンバーを中心に呼びかけ活動と献血への参加動員を行いました。今回も多く献血者を確保することができ、寒い中みんなで頑張った甲斐がありました。三宮センタープラザ献血ルームの山本所長からも、「皆様にはお忙しいところ、またお寒い中、誠にありがとうございました。皆様の熱心な呼びかけ活動により、多くの方々に献血に御参加頂くことができました。皆様の御協力に感謝申しあげます」とのお礼の言葉を頂きました。これからも「街ぐるみ」で献血推進活動に取り組みしましょう。期間中の結果は上記の通りです。



献血のお問い合わせ：赤十字献血センター センタープラザ西館3階 電話 391-7070
時間：11:00～13:00、14:00～18:00 定休日：年末年始

★ちょっと観にいこか

今年のNHKの大河ドラマは「平 清盛」ですが、源平の合戦で地元神戸で有名なのは生田の森の合戦。二月七日早朝、源平の両軍数万騎が生田川を挟んでにらみ合い、先陣を切ったのは源氏方の武蔵国住人、河原太郎高直、次郎盛直兄弟。功を焦り、陣に深く入り込んで矢にかかってしまう。「河原どのの弟兄（おとどい）、ただいま討たれ給うたぞや」と大声で呼ばわり、それを聞いた将兵たちは両軍ともに惜しんだという。生田の森の一番やりで華々しく散って行った河原の兄弟の墓が神戸に残っているのです。大丸前の三宮神社の境内の中に現在も祭られているのです。興味のある方は是非一度足を運ばれては如何でしょうか

三宮神社：神戸市中央区三宮町2丁4-4 電話：078-331-2873

★編集後記

新年明けましておめでとうでございます。特別号外号でも「第4回KOBEMO・未来号」について詳しく触れていますが、微笑ましく、嬉しいエピソードをご紹介します。帰りの飛行機に乗るため、手荷物検査の長い列に並んでいた時、参加した子供さんのお一人が「ありがとう！」と久利会長に握手を求め、もちろん会長は心よく応じ、その子を抱きしめておられました。その自然な流れは一日でできたものではなく、4年、神戸空港開港の記念フライトを含めると、5年のこのプロジェクトの継続が生み出したものだと思うのです。人と人の信頼関係は短期間で築けるものではなく、ましてやそれが大人と子供さんの間ではなお難しさを増します。このプロジェクトを経験した子供さん達はこれを後に続く子供さん達に伝えることによって、彼らの安心感も伝わりますし、やがて、その子供さん達の中からはボランティアになってこのプロジェクトに戻ってくる人も出てくるでしょう。去年から全国で続く「絆」という言葉とその心を私達の街はこれからも大切にしていきたいと思ひます。